

視覚障害リハビリテーションとは

－視覚障害リハビリテーションと職業訓練－

2018年11月24日(土)

視覚障害リハビリテーション協会
吉野 由美子

1 自己紹介

昭和22年生まれ、71歳

現在の視力 良い方の眼が矯正して0.2

腰椎の圧迫骨折と下肢障害があり、現在電動車いすに乗っている。

身体障害者手帳2種4級

1968年に筑波大学付属（教育大学付属）盲学校高等部普通科卒業後、日本福祉大学を経て、名古屋ライトハウス明の星声の図書館に就職、そこではじめて中途視覚障害者に会い、そのリハビリテーションの普及をライフワークと決める。

1999年、高知女子大学（現県立高知大学）に社会福祉の教員として赴任、そこで10年間視覚障害リハビリテーションの普及活動を行う。

2009年4月より、視覚障害リハビリテーション協会会長を務めている。

2 講演の狙い

(1) 我が国の視覚障害者の状況についての理解を深め、なぜ視覚障害リハビリテーションサービスが今必要なのかを理解すること。

3 我が国の視覚障害者の状況と視覚障害リハビリテーションの必要性

(1) 身体障害者手帳を所持している視覚障害者の数と、視覚障害があることで生活に困っている人の数を比較すると、後者は前者の5倍強

(2) 全盲が1割、ロービジョン（弱視）が9割である。

(3) 視覚障害となる原因の変化について

(4) 幼い頃からの視覚障害者と中途視覚障害者のニーズの違いについて

4 リハビリテーションとは、視覚障害リハビリテーションの内容

(1) リハビリテーションの言語的な意味、リハビリテーションの分野（範囲）

(2) リハビリテーションの定義、

5 視覚障害リハビリテーションの内容（受けられるサービス）とロービジョンケアについて

6 職業訓練－視覚障害リハビリテーションの普及を妨げる要因について

社会一般の認識と、視覚障害者の実態のミスマッチなど

7 視覚障害リハビリテーションの普及を促進する新しい動きについて

主に、眼科医療の動きについて

8 まとめに代えて－当事者として、視覚リハ専門家として約40年間の経験から、皆さんに伝えたいこと。

以上